

そわにえ
Soigner

第5号

『Soigner (ソワニエ)』とは、「世話をする・手当てする」という意味のフランス語です。

2006年4月15日発行



発行 / 東京訪問看護ステーション協議会 (責任者 森山弘子)
〒162-0815 東京都新宿区筑土八幡町4-17
社団法人東京都看護協会内
TEL: 03-5229-1534・1520 / FAX: 03-5229-1524

INDEX /	一日体験実習の報告他
宮崎先生より.....	お見合いの会開催、
第1回face to faceの会	モデル事業.....
在宅看護視察旅行...	ラヴィアンローズ...
ステーション紹介...	編集後記他.....



『花見山公園 (福島)』 訪問看護ステーションみけ 成田文子さん撮影

さんぽみち

主役は誰? 特定医療法人社団 健和会 理事 宮崎 和加子
訪問看護ステーション統括所長



先日、息子の高校(男子校)の卒業式に参加しました。何と変わっている、何と感動した笑いの卒業式だったか。

開会のあいさつの後、すぐに「では、卒業証書授与」。「へえ、来賓のあいさつなんてないんだ」と思ったら、300人の学生に一人一人に手渡しの授与。それにも驚いたけれど、その後が驚ろきっぱなし。階段を上り、校長先生から証書を受け取り、階段を下りるといった数十秒の間に、学生がそれぞれパフォーマンスするんです!まず、衣装を着替えて登場する人。ピンクのコスチュームで「安藤美姫です。4回転ジャンプをします」と飛び跳ねてすってん転び。そうすると、校長が「そろそろ賞状ですよ。〇〇君、おめでとう」。それで、賞状を受け取る。水戸黄門の衣装の人、アメリカンフットボールのユニホーム、女子店員の女装、真っ赤でたてがみのような髪毛に革ジャン、ギターを持って壇上に上がる人と様々です。また他の学生は黒っぽいスーツなのに、真っ白のスーツの人など.....。

見かけはおとなしくスーツを着ているが、とんでもないことをする学生も少なくない。卒業証書を受け取る直前に向きを変えて担任の女性の先生の前に行き、マイクを奪って「先生、僕、告白します。実は僕は先生のことを.....」と愛の告白するの

です。実は本当に好きだったのだそうです。担任の先生は頬を真っ赤にして絶句してしまいました。また、ある学生は校長先生の横まで歩いて行って、何をするのかと思ったら、いきなり先生にキスをするのです!会場は爆笑なのですが、その後が素敵なのです。校長先生が、ちょうどいい間に、にっこり笑ってその学生に「ありがとう」といって賞状を渡すのです。私はなんといい教育をしているのだろうかと思わずにはいられませんでした。

国旗も国歌斉唱もなく、校長の感慨深いお祝いの言葉と、校歌斉唱で終わりでした。2時間の卒業式の90%以上が、あの子たち学生が主役で、自分を表現していました。

形だけを気にする式、見せかけだけの毎日、他の人の目だけを意識した生き方.....。なんだか虚構が多いですね。18歳の彼らの卒業式を見て、すがすがしい気がしました。一見格好悪いかもしいない。だけど『主役』は誰か、大事なことは何かを忘れずに、周囲の目を気にせず、自分らしく生きることを支援したいし、自分もそう生きたいと思いました。あの子たちに勇気をいただいた卒業式でした。

交流会開催報告 - 中央ブロック -

第1回 face to face の会
地域連携を始めよう

ブロック支援委員 作田 和子
(小石川訪問看護ステーション)

中央ブロックでは平成17年11月18日に文京区茗台區民プラザで「face to faceの会」と名付けた交流会を開催しました。11カ所の病院看護師16名と、17ステーションの訪問看護師36名の合計52名の参加があり、日頃の連携に関わる本音を語り合うことが出来ました。

第一部では3つの立場から発表していただきました。都立大塚病院看護相談室の蒲田美千代さん/齊藤明子さんから「看護相談で求められている連携とシステム」、三井記念病院退院支援室の相馬由子さんから「当院における退院支援室の役割」、上野訪問看護ステーションの内田淑子さんから「永寿総合病院との共通サマリー作成までの経過とその後」です。各病院とも退院支援を円滑に行うために、



院内スタッフへの医療情報提供、合同カンファレンスの調整、逆サマリーの依頼、地域交流会をはかる勉強会への参加呼びかけにと努力されていました。大塚病院では、地域看護に携わる人々との合同勉強会を今までに10回開催し「訪問看護師や在宅スタッフの意見や質問がとても参考になる」と、院内スタッフのよい刺激になっているようです。台東区では共通の訪問看護サマリー用紙を作ろうという意見から、各ステーションの有志がサマリー作成に病院側も巻き込んで、それが合同のケース検討会になり、継続看護検討委員と発展し、今現在も交流が続き、区内の他の病院ともこのような連携が浸透していくようにと頑張っているそうです。

第二部では、7つのテーブルに分かれ、日頃の疑問や教えて欲しいことをフリートークし、時間が足りない

ほどの盛況でした。各病院の病棟と外来・支援室との連携の状況、電子カルテの場合送った書類の取り扱いは？訪問看護報告書はどう役立ててもらっている？などなど。大病院の看護部長さんから、小さな病院の師長さんまでお互いの顔と顔を会わせることができた貴重な一夜でした。アンケート結果では、今後の参考になった、積極的に取り組みたい、顔がわかったので今後の連携が取りやすい、病院と地域が流動的になる必要があるなど多数の意見が寄せられました。これからも2回、3回と続けていけるよう努力したいと思います。今回参加された方からなんとお礼状が届きました。うれしいですね。以下、抜粋します。

「昨日のface to faceの会」に参加させていただきありがとうございました。皆様方の在宅での思いが伝わり、継続看護の視点で、病院との連携がいかにか大切に、利用者様がいかにか不安を持ち、退院していくのかを改めて学ばされました。顔の見える関わりのお大切さ、このような機会に参加できたことを感謝いたします。(芝病院：長岐さん)

～企画開催までの裏話～

ブロック会開催の場合、会場確保と予算、参加者へのアナウンスの効果的な方法、講演者への依頼と承諾するまでのやり取りなど、何度も委員とブロック理事が練り上げました。ほかの勉強会とぶつからないよう、交通至便な予算にあった会場を押さえる、計画は早め早めが良いようです。このようなイベントを行う毎に、仲間同士の輪が広がるような気がします。これからも、face to faceで、地域連携を深めよう、続けよう、と回を重ねたいと思います。ほかのブロックも頑張ってください。



デンマーク・ドイツ・フランスの在宅看護視察旅行

訪問看護ステーションけやき 佐々木静枝

昨年11月の終わりに山崎麻耶さんと看護師5名、医療事務系職、出版社職員、ツアーコンダクターの総勢9名で8日間デンマーク・ミュンヘン・パリの在宅看護師視察旅行に行ってきました。このレポートはコミュニティケア3月号に掲載されていますので、もうすでにご覧になっている方もいらっしゃると思います。

8年前にイギリスのセントクリストファー病院 シシリーソンダースにレクチャーを受けて以来、久しぶりの海外視察旅行でした。海外在宅サービス事情に興味を持ったことと憧れのパリが視察先にあったことに惹かれ、忙しいさなか参加しました。

デンマークは皆さんもご存知のように、福祉国家であるため、国民の税負担は重い（40から50%）のですが、子育て、教育費は大学まで無料、医療はもちろん無料、安心して歳をとることができることを実感してきました。

デンマークでは病院のベッド数は1980年代に比較すると半数余りに削減され、在宅サービスが拡充されています。

日本にある特別養護老人ホームのような高齢者施設は1980年代で終わっています。その後は高齢者住宅施策に転換してきています。寝食分離の生活で2DKの広さがあるそうです。ワンルームだと認知症、抑うつ状態になりやすいとの考えからだそうです。その住宅に訪問看護、ホームヘルパー等の在宅サービスを24時間届けるのです。看護師、医師は国家公務員でそれぞれの市に配属されます。

60年前に建てられたという高齢者施設を視察しましたが、とてもとても60年前とは思えない、古さを感じないきれいな施設でした。そこにヘルパー、訪問看護ステーションが併設されていました。夜間は他のステーションと連合し広域に訪問しているそうです。

デンマークは堅実、質素、合理的そしてエコロジーな考え方に基づく生活ぶりには大いにカルチャーショックを受けると同時に、反省し学ばなければならないと思いました。

3日目のミュンヘンは雪景色で、マイナスの世界で寒さも一段と厳しくビールの美味しかったこと。4日目は、カリタス・ゾチアルスタチオン（看護介護事業所）を訪問し、レクチャーを受けました。ここでは一人の看護師の訪問件数の多いことに何よりも驚きまし



コペンハーゲンの王族が住む宮殿



コペンハーゲンの国会図書館

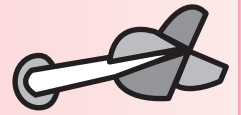
た。そのスケジュールを作成することが管理者のもっとも重要な仕事になっていました。どのくらいの訪問件数だと思いますか？朝7時30分から昼までに22件訪問するので。スケジュール表を見せていただきましたが、そこには5分、7分、10分、15分刻みに書かれていました。インスリン注射5分、デキスターチェック5分、弾性ソックス装着5分、服薬5分といった具合です。シャワーは15分あったらできると所長さんはおっしゃっていました。

夕方、これから出勤する看護師さんに会うことができました。16時30分から20時30分まで勤務するそうです。訪問件数を数えたら20件ほどはっていました。積雪は多くはないのですが、アイスバーンにも関わらず全て自転車の移動だそうです。なんと頼もしい限りの彼女らでした。

最後の視察先はパリ郊外のステーションに訪問し訪問看護を同行させていただきました。それに関しては次回に報告します。



コーディネーターのペイネさん宅でのウエルカムパーティー



ステーション紹介

特定非営利活動法人 訪問看護ステーションコスモス

訪問看護ステーションコスモスは6年前に看護師だけで立ち上げたステーションです。NPO（特定非営利活動）の法人格を取得し、山谷地域を含めた訪問看護、居宅介護支援、健康相談を実施しています。海外で難民の支援を行っていた看護師、路上生活者の支援を行っていた看護師等も集まり他のステーションとは一味違うステーションに成長しました。現在18名（常勤9名非常勤9名）の看護師が働いていますが、皆勉強熱心で心優しい看護師達です。ターミナルグループ、褥創グループ、健康相談グループ、精神グループに別れ、それぞれ自主的に勉強会を行っています。褥瘡学会、公衆衛生学会、結核病学会でも事例報告をしました。

山谷を知らない人も多いと思いますので、まず山谷について少し説明をさせてください。山谷とは台東区、荒川区にまたがる一部地域の通称で、現在地図には存在しません。工事現場等で働く日雇い労働者が多く集まり、労働者はドヤと呼ばれる簡易旅館で寝起きをしています。しかしバブル経済崩壊以降は仕事がなくなり、その日暮らしの労働者はホームレス生活を余儀なくさせられることも多く、山谷は日本の中で最も貧しい地域の一つとなりました。そこに住む人達は親兄弟とは縁を切った単身者が多く、昔元気で働いていた人達も高齢化し多くは病気を持つようになりました。

訪問看護ステーションコスモスは山谷の人達を応援する他の団体と協力し、山谷の人達の看取りも行います。その時その時の出会いを大切に、そして茶毘に付し骨を拾うまで付き合うこともあります。どのような境遇に生活する人達にも差別することなく関わることは、コスモスの設立理念にもなっています。勿論、山谷の人達ばかりでなく地



広場祭での健康相談ボランティア

域で家族と一緒に生活する人達もしっかり訪問しています。

又、コスモスでは、訪問看護のみではなく路上の人達への健康支援も行っています。

コスモス事務所1階は日中デイサービスを行っています。シャッターが閉まると多くの人達がダンボールを運び野宿をします。冬の厳しい寒さは野宿者の命を奪うことも多く、何度か救急車の要請をしたこともあります。残念ながら息絶えていた人もありました。このような人達を一人でもなくす為に、路上生活者の健康支援も事業の一環として行っております。

この地域でコスモスはその名のように可憐な花を、献身的にそして根強く、ほんの一輪でも咲かせることが出来たら・・・と思い日々看護に取り組んでいます。

(代表 山下真美子)



春恒例のお花見会

*コスモス5年記念誌を作成しました。皆様に読んで頂けると嬉しく思います。送料として切手500円を同封の上、訪問看護ステーションコスモス（住所は下記参照）までお送り下さい。



今回ご協力いただいたステーション
特定非営利活動法人(NPO法人)
訪問看護ステーションコスモス

代表 山下真美子

〒111-0062 東京都台東区日本堤1-12-6
TEL 03-3871-7228 FAX 03-3871-7229
e-mail:s.cosmos@cronos.ocn.ne.jp

訪問看護ステーション一日体験実習の報告

東京訪問看護ステーション協議会の研修委員が主催した「訪問看護ステーションへの一日体験研修」が1月末に行われました。今回の体験研修に応募された病院関係者は、看護師が方で、171名が参加されました。受け入れた訪問看護ステーションは84ステーションです。ご協力ありがとうございました。参加された両者へアンケートをしましたのでその結果を報告します。

研修生からのアンケートの回収率は47%で、年代は20代が34人、30代が25人、40代が13人、50代以上が7名でした。病棟勤務の看護師が76%を占めていました。研修の申し込みの動機は、訪問看護への興味と、在宅療養への関心・看看連携への興味、上司からの勧めなどでした。この研修で変化が期待されることとして、退院支援・退院指導・在宅療養のイメージなどで、訪問看護への更なる興味・在宅療養者への拡大にも期待が持たれました。

研修を受け入れたステーションは開設して5年以上のステーションが56%で、4割が医療法人でした。受け入れの理由として、訪問看護のPRのため、連携についての問題意識があったから、将来の人材確保、協議会主催だったのだという理由が主でした。変化として期待されることとして、退院支援・退院指導、在宅療養のイメージ、在宅療養者の拡大が挙がっていました。次回もこのような研修を継続した方がよいと62のステーションが答えていました。両者同じ思いでの有意義な研修だったことが伺えます。

研修生のアンケートに寄せられた感想の一部をご紹介します。

●在宅では一人のNsであらゆることに対応しなければならないことから、改めて臨床での経験がものを言うと感じた。患者さんの話をゆっくり聞ける看護だなと気づいた。限られた時間の中で処置をこなすばかりでなく、ご家族とのコミュニケーションが大事であること。ご家族との信頼関係の大事さ。

●Ns一人で訪問するため責任が重く、その場での判断や次回に訪問するNsへ継続した内容を伝達する大切さ。

●家族の介護力の影響は大きいと思った。療養の環境が様々なため、同じケアにも様々な工夫が必要だということ。

●高齢者の独居や老老介護を行っている場合、内服管理がかなり困難だとわかり、改めてもっと入院中より、内服の

管理や管理方法など考えていかなければならないと感じた。生活スタイルにあった看護を提供することの重要性を学びました。

●在宅はやっぱおもしろい。訪問看護が在宅患者の生活のメリハリを与えていると感じた。感動した。

受け入れステーションからの感想です。

●病院の看護師と話が出来て、お互いの状況理解と問題が明確になった。

●一日だけでも体験者は感動してくれました。訪問の現状を理解していた だくためにはこのような体験は有意義だと思います。お互いよい刺激になった。交流が生まれた。訪問看護に興味を持っていただき、よい連携をとり、人材確保につながれば、言うことなし。

この研修にあたり始めてということもあって研修委員さんも夜遅くまで、応募された研修生と、受け入れのステーションをマッチングされるのに、大変なご苦労があったそうです。ご協力してくださった訪問看護ステーションの皆様、ありがとうございます。研修委員の皆様、その労を感謝します。

「1日体験研修のまとめ」

1日体験研修の企画は 研修委員会初回の中で看護職同士の連携が上手くゆくにはどうすればよいか…の話しをしている時に出てきた意見でした。今までにない研修スタイルが看護職同士の距離を近づけてくれるかも、という期待で企画をスタートさせました。

研修案内送付後は申し込みの反応は遅かったですが、締め切りが近づくにつれて、1日に数十件の申し込みをいただき、うれしい悲鳴を上げたのでした。

ST・研修生のマッチングと、それぞれへの情報提供の過程は時間との戦いでした。研修委員と事務局で夜勤帯にまでかかる作業の連日でした。初めてのことというのは、なかなか手際よく行かないものだ、実感しました。1日体験研修は、雪が積もった月曜日から始まりました。例年にない降雪で影響を受けましたが、皆様のご協力とご配慮により無事に5日間の研修期間を終えることができました。

研修生の方からは、今後も継続して欲しいとの要望もあり、また、改善すべき点もたくさんありますので、委員会で今後も検討を行います。 (研修委員長 曾木はま子)

書籍紹介

ターミナルケアをもっと豊かに 在宅での看取りのケア 家族支援を中心に

監修 宮崎和加子 ¥2,000+税 (日本看護協会出版会)



まだ、私たちが東京訪問看護ステーション連絡会であったころ、現任教育研修というのがありました。聖路加看護大学の川越博美教授、長江弘子講師ほか諸先生方の協力を得て、現場で働く訪問看護師の有志たちが、受け身の研修でなく自ら自主的に学びあうというものでした。その一つの研修グループの2000年の取り組みをまとめたものが、この書籍の原点になっています。今回、1月に立派なハンドブックとなり出版されました。ターミナルケアで、どんな声掛けをしらいいのだろうかとか、こうした場合の対処は??とまだ悩む場面がありませんか? そんなとき役立つ実践家のための手引書です。ターミナルを受け持つとき、最高の支援者になるための1冊です。是非、お買い求めください。

「お見合いの会」開催

中募 グループホームさんたちが、
！集 パートナーを探しています。

3月20日にグループホーム連絡会と当協議会の訪問看護推進委員の共催で、「お見合いの会」が開催されました。参加グループホームは103ヶ所。それに対し、参加した訪問看護ステーションは52ヶ所でした。合計209名の参加が得られ、地域毎に分かれての情報交換会もできました。今回の改正から、グループホームでの医療連携体制加算（39単位/日/人）が創設されました。認知症高齢者グループホームと

訪問看護ステーションが予め契約し、STの訪問看護師が向向き、グループホームにおいて、入居者の健康状態を定期的にチェックを実施するとともに、看護師と24時間の連絡体制の確保を支援するというものです。訪問可能な距離で、グループホームと24時間の連絡体制がとれるステーションは是非、手を挙げてください。募集地域は以下の通りです。

◆
* 杉並高井戸地域 1ユニット * 新宿西落合 2ユニット
* 荒川5丁目 1ユニット * 荒川8丁目 2ユニット
* 中野地域 2ユニット

「ALS患者等24時間看護」のモデル事業

昨年度、当ステーション（以下けせら）は日本看護協会主催の、ALS患者等24時間訪問看護モデル事業を行いました。これは医療ニーズの高い、重度の在宅療養ケースに対して24時間の訪問看護を提供していき、その効果を得ることでした。全国から5事業所が選ばれ、都内では、調布医師会訪問看護ステーションも実施しました。ここで、けせらの取り組みを簡単に報告いたします。

けせらの利用者数は70名前後・月間訪問回数330回前後・職員数9名（常勤2名・非常勤7名）です。その程度の規模で24時間の訪問看護を提供するには、対象者が少なく効率的な訪問ができません。マンパワーと仕事の量のバランスが取れないと経営困難になり、ステーションの運営上、大きな問題になります。

けせらでは人工呼吸器を装着しているケースは1名のみであり、これではモデル事業として成立しないため、訪問可能な近隣に設立されている他のステーションにケースの提供をしていただきました。ケースの協力は、千駄木STの他、台東区の浅草医師会立ST・言問通りST・STコスモスでした。最終的には5ケースに夜間訪問をしました。病名はALSが3名・慢性呼吸不全が1名・肺癌のターミナル1名で、このうち3名が人工呼吸器を装着しているケースです。実際行ったモデル事業の期間は、5月中旬から11月末でしたが、全ケースが同時にスタートしたわけではなく、開始時は3名のケースでしたが、途中で2名が加わりました。よって、3ケースは実施期間中、訪問が継続が出来ましたが、1名は約2ヶ月で死亡終了、

もう1ケースも1回の訪問で死亡終了という結果でした。

ケア内容はケースによって違いますが、呼吸リハビリは毎回、必ず提供するよう

にしました。人員の関係もありイブニングケアの時間帯での訪問とし、1回の滞在時間は2時間程度です。訪問回数は、週1回が1名・週2回が1名・週3回が1名・不定期のケースが1名でした。もう1ケースは介護者のレスパイトとして、月に2回程度、看護師が利用者宅に泊まりこんでケアをするという形態を取りました。

スタッフは夜間に訪問できる看護師を新たに2名雇用し、その2名の看護師が対応できないときは、私が訪問しました。しかし、途中で1名が体調を崩し休職となったため、1名の看護師が主に訪問し、不都合な日は私が訪問する（夜間に訪問できる看護師を再度募集したが応募がなかった）という2名体制でモデル事業を終了しました。このように、人員がぎりぎりに近い状況だったため、訪問時間が重ならないよう、真夜中や朝方などにならないよう、訪問看護師の都合に応じた時間で、設定せざるを得ない状況でした。

こんな状況ではありましたが、モデル事業に協力いただいたご家族の方々からは、訪問看護を受けている時間は、利用者さんから安心して離れることができた。リフレッシュする時間を得ることができたとの声がありました。

今後、24時間訪問看護のニーズは高まると思えますが、これを満たす為には多くの課題も残っています。課題解決に向けて何らかの取り組みが、早期に必要なようになるでしょう。このモデル事業の詳しい報告は、また別な機会にお伝えできればと思っております。

（ 訪問看護ステーションけせら ）
阿部智子 文京区本郷2-4-1-101

～ 広報委員から聞いてみました～

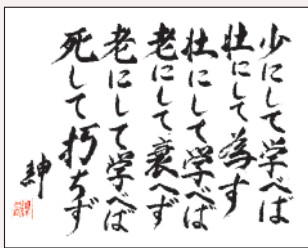
通常のお仕事もしながらのモデル事業、本当にご苦労様でした。夜の訪問は車？自転車？あの距離はどう通ったのですか？とお聞きすると、流しのタクシーを利用したそうです。都会ならではですね。「夜遅い山谷地区が怖かったわ～」と阿部所長さん、いつも明るくバイタリティーのあるすてきな方です。今、本格的な報告書作りに懸命のようです。頑張ってください。おつかれさまでした。



4月に93歳になられる野本信義さん（台東区在住）は、私の尊敬する人生の師です。大腿骨骨折後も衰えないようにリハビリを続けています。趣味も教養も豊富で、多くの粋な友達に応援されながら、一人暮らしをしています。この時代に「人の道」について多くの教えが出来る人です。自立した生活は若い頃からの習慣が大切。丁寧に大切に生きていく。それが積み重ねになり円熟した人生になります。そんなことを野本さんから教わりました。



（上野訪問看護ステーション・天木弘子）



野本さんの直筆

→84歳のガールフレンド・清水さんから届いた絵手紙



◆ご投稿いただき有難うございました◆

昨年末にめでたく100歳を迎えられたご利用者様とご家族です。息子さんご家族は、浅草で材木店を営みながらお母様の介護をされています。亡くなられたお父様の介護もされており、介護生活約30年のベテランの方々です。お忙しい中で時間をやりくりされ、出来る限りご自分達で家で介護したいと頑張られており、いつも頭が下がる思いで訪問させていただいています。

これからも長寿日本一を目指して！

（浅草医師会立訪問看護ステーション・地本 幸）



母百歳
息子夫婦も
喜ぶ
過ぎ去りし日々
あきあかほ

地域ケア・在宅ケアに携わる人のための

コミュニティケア

COMMUNITY CARE

A4判変型 定価1,050円(税込)

「臨時増刊号」5月・10月発行 定価1,575円(税込)

年間購読料/14冊分 定価15,750円(税込)

2006年4月号

【第1特集】
特別養護老人ホームにおける“看護”
—尊厳ある生活を支えるために—

【第2特集】
錠剤をつぶさずに経管投与する
在宅でできる“簡易懸濁法”

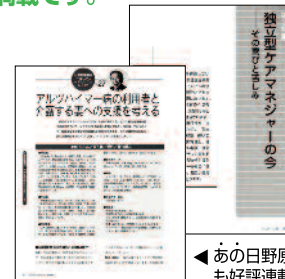
2006年3月号

【第1特集】
期待高まる「地域医療連携室」
—スムーズな退院支援のカギとは？—

【第2特集】
デンマーク・ドイツ・フランスの最新在宅看護事情
—多機能・24時間ケアを日本でどう生かすか—

訪問看護師や看護職のケアマネジャーのための月刊誌。
「地域連携」「スキルの向上」をキーワードに、コミュニティ（地域・在宅）ケアの情報満載です。

年間購読受付中！！



◀幅広い話題を追う「第2特集」

◀あの日野原重明先生の誌上カンファレンス
も好評連載中！！



日本看護協会出版会

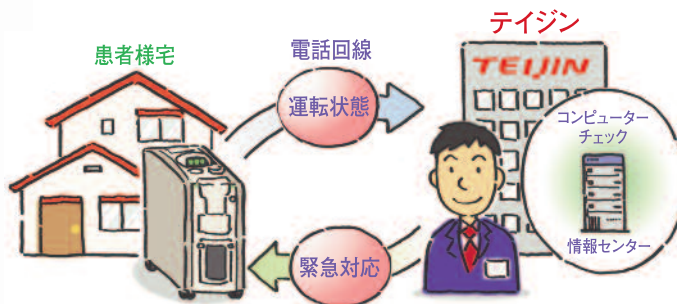
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-8-2
日本看護協会ビル4F
TEL.03-5778-5751 FAX.03-5778-5760

【コールセンター TEL.0436-23-3271
(ご注文) FAX.0436-23-3272
郵便振替00190-8-168557

<http://www.jnacc.jp>

患者様のQuality Of Lifeの向上が テイジンの理念です。

電話回線を使った
酸素濃縮器モニタリングシステム
(TOMS)が、
機器の稼動状況を見守り、
安心と信頼を支えます。



TEIJIN

- 酸素濃縮式供給装置
ハイサンソ[®] シリーズ
マイルドサンソ[®] TO-40S
- 携帯用軽量酸素供給システム
ウルトレッサ[®]
+サンソセーバー[®] II
- 酸素飽和度モニタ
PULSOX[®] シリーズ

帝人在宅医療東京株式会社

東京第1営業所 TEL. 03-3506-4867
東京第2営業所 TEL. 03-3506-4865
東京第3営業所 TEL. 03-3506-4866

多摩営業所 TEL. 042-538-2515
城北呼吸ケア支援ステーション TEL. 03-5964-6070

広報委員からお知らせ

●協議会のパンフレットが出来ました。

東京訪問看護ステーション協議会のパンフレットが出来上がりました。青空に舞うプロペラ？竹とんぼ？自由にイメージしてください。協議会についてわかりやすく説明してありますので、今一度理解してみてください。また新たな仲間を増やすために、ご活用ください。必要な方は事務局まで申し出てください。



●もえぎいろ

皆様の事業所にも毎日たくさんの郵便物が届くと思いますが、私たちの協議会でもインパクトのある色での封筒を作りました。ちょっと珍しい「もえぎいろ」にしました。この封筒が届いたら協議会からのお知らせと思ってください。新しいカラーでこれからもよろしくお祈りします。

●広告主募集

そわにえのパトロンを探しています。印刷や発送の費用の足しに、企業の皆様のご好意を是非お祈りします。

投稿募集

東京訪問看護ステーション協議会の会報は、会員の皆様や皆様とかかわり合いのある方、みんなが気軽に参加してくれる紙面作りをしています。特に表紙の写真や絵の投稿、皆さんの趣味のこと、自分たちのステーションでのおもしろ話、苦労話、こんな時どうしてる？とか、おいしいお店、おもしろかった本や映画、何でも結構です。気軽に投稿ください。もちろん匿名でもかまいません。掲載された方には謝礼が出来ます。広報委員の取材や編集の協力をしてみたい方、大歓迎です。

編集後記

今年のスギ花粉はたいしたことなくて、ほっとしている方も多いのではないのでしょうか？今年の4月からの改正で、介護報酬・診療報酬とも、看護には優しい改正となりましたが、かなり複雑で法解釈に苦労していることと思います。ケアマネと併設しているステーションは、ケースを減らしたり、予防プランは受けるかどうかで大変なことになっていることでしょう。実際、ちまたにはケアマネが見つからない「難民」たちが溢れているようです。これからゴールデンウィークも無事にレセプトを乗り越えることで済めそうですね。ストレスで体を壊さないよう、気をつけて、気分転換を大切に、この荒波を共に乗り越えましょう。(天木)

訪問看護協議会 入会募集

3月31日現在の会員数

継続会員 255st 新規会員 81st 合計 336st

「広げよう仲間の輪を！手をつなごう未来のために」

投稿、広告につきましては、fresca@r3.dion.ne.jp ステーションみけ 椎名までお問い合わせ下さい。

心地よい眠りで、
あなたの元気を応援します。
東洋羽毛の羽毛ふとん

毎日元気で充実していれば、自然と笑顔が浮かんでくる。そんな笑顔にあふれた毎日を過ごすために、人生の1/3ともいわれる「眠り」を大切にしたい。快適な眠りには健やかな暮らしに欠かせない、心と体の安らぎがたっぷり詰まっています。いい笑顔は、いい寝顔から。東洋羽毛はふんわり、あたたか、心地よい羽毛ふとんで、あなたの元気を応援します。いつも笑顔いっぱい過ごせるように。

羽毛ふとんのことなら
<http://www.toyoumo.co.jp>

◎ 羽毛ふとんの点検やアフターサービスと称して、不当な買い替えや、クリーニングをすすめる悪徳訪問業者が囃えています。十分ご注意ください。

東京営業所	〒105-0001 港区虎ノ門3-8-21 虎ノ門33森ビル1・2F	TEL 0120-195804
南東京営業所	〒154-0011 世田谷区上馬3-7-8 トーヨーBLDG2F	TEL 0120-559070
西東京営業所	〒192-0364 八王子市南大沢2-204-15	TEL 0120-218104

創る

私たちは
創る心を
大切にします

ステーションのパンフレット・ 記念誌承ります

再生紙や大豆インキを使った印刷、
針金を使わない糊止め製本など、
ECO活動にも取り組んでいます。

伊豆アート印刷株式会社
〒104-0043 東京都中央区湊1-6-2
TEL 03-3553-8088
FAX 03-3553-8089
E-mail: yamada@izuart.co.jp

胃ろうと栄養の「PDNセミナー」を計画しませんか。



■胃ろうの正しい適応、安全な造設・交換、責任あるケアなどを学ぶセミナーです。

■講師の紹介、各種教材の頒布など、お気軽にご相談ください。

03-5733-4361

ホームページでごらんになれます。
<http://www.peg.ne.jp>

PDN NPO法人PEGドクターズネットワーク
〒105-0004 東京都港区新橋4-29-6 寺田ビル403
TEL 03-5733-4361 FAX 03-5776-6486